

平成 29 年 3 月 30 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）留学終了報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 報告者情報

所属/学年	理工学研究科 機械工学専攻/1年	性別	男
卒業/修了 予定年月日	2018年3月		

2. 留学の概要

留学期間	開始年月日	2017/1/7	終了年月日	2017/3/17
留学のタイトル	多種多様な文化の理解を通して国際性を備えた人材を目指す			
留学の目的と概要（実践活動部分には、下線を引いて下さい）（700字程度）				
<p>私の留学計画のタイトルは、「多種多様な文化の理解を通して国際性を備えた人材を目指す」ことです。私は将来世界で活躍できる人材になりたいと考えています。<u>そのために私は鹿児島で開催された国際交流の参加や海外旅行などを通して、様々な文化の人たちと接してきました。</u><u>このような経験を通して、私はコミュニケーションをとる時はお互いに尊敬の気持ちを持ち笑顔で接することが大切であるということを知ることができました。</u>国際交流や海外旅行なども異文化を理解することができるが、実際に海外で語学を勉強し就業体験することでも様々なことを学ぶことができると思います。今回の留学における語学研修とインターンシップは「海外企業の仕事の進め方」や「物事をさまざまな視点で見る能力」「エンジニアとして必要な能力」などを身につける機会が大いにあり、将来グローバルに活躍するための経験ができると思います。また、たくさんのハイテク企業があるシリコンバレーでの留学は、普段の研究では味わうことのできない刺激を受けることができます。語学研修では同世代の学生が普段どのような研究を行っていて、どのように努力をしているかを知ることができます。また、たくさんの学生と会話する機会があるのでとても楽しみです。インターンシップでは、世界で活躍している技術者から様々なことを吸収したいです。海外での就業体験を通して自分の弱みを把握し、それを乗り越える努力をしたいです。また、仕事をするとき失敗をすると思うが、失敗から自分に何が足りなかったのかを学び常に前向きな気持ちを忘れずに挑戦したいと思います。そして、将来社会人として活躍するために必要な能力を学び、残りの学生生活に活かし、鹿児島の地域活性化に貢献したいです。</p>				

3. 受入れ機関情報及びスケジュール

(1) 受入れ機関情報

	1ヶ所目の機関	2ヶ所目の機関	3ヶ所目の機関
国・地域	アメリカ	アメリカ	
都市名	サンノゼ	サンノゼ	
機関名 (英語)	San Jose State University	Innovation Matrix	
機関名 (日本語)	サンノゼ州立大学附属 語学学校	イノベーションマトリクス	
受入れ 機関 URL	http://www.sjsu.jp/	http://www.innovation-matrix.com/japan/	

(2) 留学期間中のスケジュール 留学月数 (2.5) ヶ月 / 授業料申請 (有・無)

年 月	留学先機関	国・地域	主な活動
2017/1/9~2017/3/10	サンノゼ州立大学附属 語学学校	アメリカ	語学研修
同上	Innovation Matrix	アメリカ	インターンシップ

(3) 参加したプログラム (有・無) (複数選択可)

本学の協定校交換留学	名称記入	本学の協定校交換 留学以外のプログラム	名称記入
本学以外の機関による 留学プログラム	名称記入		

4. 留学の成果及びその測定方法 (300字程度)

成果発表 (論文、作品等)	単位取得	○	外国語能力	その他
単位取得：留学先での語学研修及びインターンシップを通して、英語力向上・異文化理解などの能力を身に付け、英語の試験・発表・レポートを行うことで単位を取得する。 ・英語の試験は帰国後に TOEIC を受験する。 ・発表はインターンシップ先での成果発表を行う。 ・レポートは留学先での活動を英語で書き、帰国後に提出する				

※当てはまる項目に○を付し、具体的に説明して下さい (複数回答可)

5. 上記 4.も含め、留学の目的がどのように達成できたか、留学で得たことは何か記述してください。
(500 字程度)

今回の留学で「人との出会いを大切にすること」が仕事・人生において重要であることを学びました。また、何歳になっても学ぼうとする気持ちも大切であると感じました。今回の留学の目的は、「多種多様な文化の理解を通して国際性を備えた人材を目指す」ことでしたので、より多くの人と交流するために語学研修およびインターンシップ以外にも活動を行いました。「実際に会ってみたい人にメールしてオフィスに訪問する」、「シリコンバレーで開催されているイベントに参加する」などの活動を行い、世界で活躍されている人とお話しをしました。私もシリコンバレーで知り合った方に、いろんな人を紹介してもらうことができ、将来、グローバルに活躍することが夢である私にとって貴重な話を聞くことができました。様々な方面で活躍されている人とお話しをしていくと皆さんに共通していることに気づきました。それは、「人と人の繋がりを大切にすること」、「常に学ぼうとする気持ちを持つこと」です。また、これらを「継続する」ことが一番大切であり、難しいことだと感じました。社会に出る前にこのようなことを感じる事ができたのはとても良かったと思います。実際に留学し、いろんな人に会うことで多くのことを学ぶことができました。

6. 留学後に行う鹿児島地域を活性化する活動について述べてください。(500 字程度)

シリコンバレーという世界中の最先端技術が集まっている地域での研修を通して、「シリコンバレーにおける IoT、AI(Artificial Intelligence)、Deep Learning の動向」を調査し、鹿児島県が持つ問題点に対して、最先端技術をどのように組み合わせるかを発表する活動を行います。鹿児島県だけでなく日本中では、「少子高齢化社会における労働人口の減少」が問題になると思われます。これにより鹿児島の「農業・介護・物流」産業の活性化が必要になると思われるので、シリコンバレーでの活動を通して知り合った方がどのようなビジネスを行っているかを紹介したいと思います。地方の介護施設からシリコンバレーに視察に来た人がいましたし、日本の中小企業が海外進出する際に支援してくれる方にもお会いすることができました。さらに、福岡や静岡の行政から派遣されてシリコンバレーと日本をつなぐ仕事をされている人や、地域産業とシリコンバレーの技術を大学で研究されている人にもお会いすることができました。このような海外研修での活動を鹿児島での発表の場で紹介したいと思います。鹿児島地域を活性化するためにはシリコンバレーだけではなくてアジア諸国との連携も重要だと思うが、今回はシリコンバレーの動向を紹介し、鹿児島県の産業とどのように結びつけていけばいいのかを発表したいと思います。

7. 留学を今後の自分の生き方にどのように活かすか、留学成果を活用して将来鹿児島地域に貢献できることは何か記述して下さい。(500 字程度)

今回の海外研修で「人と人との繋がりを大切にすること」、「海外の人と接する上で、お互いの文化・価値観を理解し尊重し合うこと」、「常に学ぼうとする気持ちを持つこと」、そしてこれらを長く継続することの大切さを学びました。語学研修およびインターンシップ以外にも多くのイベントに参加したり、会いたい人にメールしてオフィスに会いに行ったりする中で、たくさんの人に出会うことができましたし、いろんな人を紹介させて頂きました。その中で、老若男女に関わらず人との出会いを大切に、常に変化する社会に対して新しいものを学ぼうとする気持ちが重要であることがわかりました。今後の自分の生き方に研修で学んだことを活かしていきたいです。このような留学成果を鹿児島で発表して鹿児島が抱える問題を様々な方向から解決する方法を検討していきたいです。また、日本の産業を発展させるために、日本企業にシリコンバレーの企業を紹介している団体の紹介なども行いたいです。そのためには、鹿児島の企業・自治体が何を解決したいのかを明確にしておく必要があると思います。将来、社会に出てもグローバルに活躍し、鹿児島地域に貢献していきたいです。

平成 29 年 6 月 13 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）
留学後地域活性化報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 報告者情報

所属/学年	理工学研究科 機械工学専攻/1年	性別	男
卒業/修了 予定年月日	2018年3月		

5. 留学後の鹿児島地域を活性化する活動の概要を、留学の成果との関係がわかるように記述してください。（700字程度）

【活動のタイトル】鹿児島県工業倶楽部でシリコンバレーの動向を発表する

【活動の期間】 2017年 4月 1日～ 2017年 6月 12日

【活動の概要】鹿児島県工業倶楽部でシリコンバレーの動向を発表する

鹿児島県工業倶楽部にてシリコンバレー研修を通しての気づき・学んだことを発表します。発表内容は「今後の労働人口現象に対するシリコンバレーの動向(物流)」です。鹿児島では今後、少子高齢化社会によって高齢者が増加し、労働人口が減少していくと考えられます。また、世界でも今後の労働人口現象が問題となっており、世界中でさまざまな対策が考えられています。今回研修に行ったシリコンバレーでも労働人口減少に対しての対策が行われていたので、その一例を紹介します。主に物流について発表をおこない、「工場内の物流」と「人の物流・移動」について取り組んでいるシリコンバレーの企業を紹介します。またシリコンバレーには、日本企業を世界に発信する支援を行っている団体が数多くあったので紹介します。「工場内の物流」については、研修中のインターンシップで訪問した「Fetch Robotics Inc.」について紹介し、「人の物流・移動」については、普段の生活で利用していた自動車シェアリングの「UBER」について紹介します。日本企業を世界に進出させるための支援を行っている団体は「JABI」「JAPAN PRODUCT」を紹介し、鹿児島の企業が世界に進出するための情報を発信します。

シリコンバレー研修では語学研修およびインターンシップだけでなく、US Japan Forum、JTPA、IT飲み会などのイベントに参加し、エンジニアだけでなく経営者、投資家など数多くの有識者から話を聞くことができました。これらの経験も鹿児島県工業倶楽部で発表します。

6. 鹿児島地域を活性化する活動の成果と今後の課題と展望について述べてください。(700字程度)

鹿児島地域を活性化する活動として、鹿児島工業倶楽部で「労働人口減少に対するシリコンバレーの動向」というテーマで講演しました。アメリカと同様に鹿児島も今後は労働人口が減少していくと考えられるため上記のテーマで発表しました。鹿児島とシリコンバレーは人種の多様性や企業文化など、様々な点で大きく異なっているため、鹿児島の地域を活性化するためには、鹿児島の特徴を活かしたビジネスを考えるべきだと思います。鹿児島地域を活性化する活動の今後の課題は、世界最先端の技術を鹿児島でも用いることができるかということだと思います。シリコンバレーでは最先端技術が発展しており、日々の生活に直接関わっているが、この技術が日本や鹿児島に来るには多くの時間がかかっていると思います。そこで海外研修の経験を鹿児島地域の活性化につなげるためには、最先端技術を調査するだけでなく、世界中で活躍されている人の考え方・働き方などを知る必要があります。鹿児島の企業における後継者を確保する必要があると感じました。シリコンバレーの研修で、福岡県や静岡県の子会社として働いている方にお会いし、県内企業と世界を繋いで様々なビジネスをされている人に会うことができました。鹿児島県も地域の特性を活かして、世界の様々な地域を連携に挑戦したら地域の活性化につながると感じました。そのためには鹿児島地域について深い知識が必要であると感じましたので、研修前に自主的に学習する必要があると感じました。